

シネマ通信

第20号(2025年11月24日)



クリスマス・イブ・イン・ミラーズ・ポイント

監督:タイラー・タオルミーナ

脚本:タイラー・タオルミーナ、エリック・バーガー

出演:マイケル・セラ、エルシー・フィッシャー、マリア・ディッツィア
ベン・シェンクマン、グレッグ・ターキントン、マチルダ・フレミング
フランチェスカ・スコセッシ、ソーヤー・スピルバーグ

クリスマス・イブの夜に、4世代にわたるバルサーノ家の人々が集まった。毎年恒例のパーティだが、今年は少し趣が異なる。なぜならこの集まりは、今年が最後になるかもしれないからだ。

一族の敬愛を集める祖母を中心に、陽気に飲み語らう、おじ・おば、いとこたち。しかし、賑やかな祝宴のさなかに、若いエミリーとミッシェルはこっそりと席を外し、冒険を求めて雪景色の郊外へと飛び出すのだった、..

アメリカの俊英、タイラー・タオルミーナ監督の最新作。現代的でありながら、どこかノスタルジーも漂う唯一無二のクリスマス映画。スコセッシ監督の娘、フランチェスカ・スコセッシやスピルバーグ監督の息子、ソーヤー・スピルバーグの登場も映画ファンにはうれしいです。

第20回鑑賞作品

ロングアイランドの
4世代続く家族が
最後になるかも知れない
クリスマスを迎える



About Them

元バンドマンという経歴をもつタイラー・タオルミーナ監督は、1990年、ニューヨーク州ロングアイランド生まれ。「ライ麦畑でハム」「ハッパーズ・コメット」で、一躍、注目の若手監督・脚本家となりました。現代社会の閉塞感、それに反発する若者たちの爆発的エネルギー。時代に翻弄される未成熟な魂の苦悩を、クールにそして愛情深く描く妙手です。

2010年、彼はエマーソン大学在学中に、友人たちと映画制作集団『オムネス・フィルムズ』を創設。卒業後、ロスアンゼルスで共同制作を始めたのを皮切りに、今では短編、ミュージック・ビデオ、本格的な長編までを手がけるようになりました。同団体は正式な法人ではなく、友人同士が自然発生的に協力する緩やかな共同体。撮影、脚本、音楽など、互いの作品に役割をもって参加し、低予算を支えます。本作ではメンバーのカーソン・ランド(「トポロジー・オブ・セイレーン」の監督)が撮影を担当。詩情豊かな映像づくりに貢献しています。近年、メンバーは国籍を超えて広がり、全く新しい制作スタイルとして、映画界にセンセーションを巻き起こしています。



About Something

「LIFE IS TOO SHORT for bad Coffee」。スコットランドにある小さなカフェの看板です。コーヒー好きの私にとって、こんなこと言われたら飲まずにはいられないところですが、北に向かう現地ツアーの途上でそんな時間はありませんでした。残念！！逃した魚は大きい！！

今回の旅の目的は、「嵐が丘」の里を見ること。スコットランド王国の首府、エディンバラを歩くこと。映画で、ハリーポッターが乗った蒸気機関車に乗ることetcでした。「嵐が丘」や「ジェーン・エア」で知られるブロンテ姉妹が育ったハワースは、イングランド北部の田舎町。家と学校、父親が牧師を務める教会が徒歩3分以内に位置し、その近さに驚きます。ヒースの荒れ地に囲まれ生活圏が狭いからこそ、想像力が大きく羽ばたいたのかも知れません。エディンバラは、時間がゆったりと流れる情感豊かな古都。丘の上のエディンバラ城が、王国のオーラを街中に放っているのでしょうか？古い建物と新しいビルが、何の違和感もなく並んでいます。ハリーポッターには2つのSLが登場しますが、どちらも乗客の半分は観光客。いまだにその人気は衰えていないようです。

今回の新発見は、ノースヨークシャーを走るSLの終着点、ワイトビーという北海に面する港町。歴史的な街並みがそのまま残り、美しい海岸線と溶け合います。街を一望した瞬間に、ああ、もう一度ここに来たい！と強く願ったのは、フィレンツェ以来のことかも知れません。ドラキュラ伝説発祥の地であり、キャプテンクックも近隣の出身。この港で建造されたエンデバー号で、最初の太平洋航海に乗り出しました。

2002年度のアメリカ映画「抱擁」(主演:グイネス・パルトロー、アーロン・エッカート)の舞台がこの街と知り、帰国後、即、娘が登録しているアマゾン・プライムで視聴しました。同性愛者だと思われていた19世紀の女性詩人と、桂冠詩人である既婚男性との秘めたる恋の物語。女性詩人の末裔にあたる女性と、新説を唱えるアメリカ青年。初対面の二人の研究者が、19世紀の恋の真偽を確かめるために、詩人たちが旅したワイトビーを旅します。ヴィクトリア朝の女性詩人を演じたジェニファー・イーリーが素晴らしい。その生から死まで、女性としてのしがらみから逃れることのできない時代に、苦悶しつつも自分を貫く強い女性を、物静かに優雅に演じています。これも、旅の余録でしょうか？久しぶりに、かぐわしい映画を見ることができました。

文責 安東桂子